

## 令和元年度 奈良県教育長賞

### 「消費税と幸福度」

奈良県立磯城野高等学校 一年 市田 信志

私は、消費税と、国の幸福度について考えてみた。消費税とは、買い物をすれば、必ずと言って良いほど払わなければならない税金の事で、消費税を好む者は少ないだろう。そして、消費税増税のニュースが報道され皆はパニックになっていることだろう。そんな消費税も国によっては、高かったり、低かったりバラバラである。すると、人によっては、「消費税が少ない国は幸せだな。」こういう考えを持つ人も出てくるはずだ。しかし、私は一概にそうともいえないと思う。たしかに、親におこづかいをもらって、やりくりしている子供達からすれば、消費税は低いほうが幸せだろう。その一方、大人はそうとは限らないのではないだろうか。日本は現在、消費税は八%である。日本人は減税を求めている人がほとんどだが、世界的に見ると、我が国の消費税は、下から三番目に低い。そうなると幸福度は高いと思われがちだが、世界で五十八番目だそうだ。それに比べてフィンランドは消費税が最大で二十四%と世界で6番目に高いが、幸福度は世界一位である。このように消費税が低いから幸せ、消費税が高いから不幸になるということでは無いことが分かった。なら、「なぜ日本は消費税が低いのに幸福度も低く、フィンランドは消費税が高いのに幸福度も高いのだろう」という疑問を持つ人も出てくると思う。たしかに、お金をたくさん払うと一見、不自由な事が増えると思う。しかし、その差の原因は2つあると私は考えた。一つは、社会保障の充実である。国民がたくさんの消費税を納める事によって、社会保障に当てるお金が増え、国民の生活が安定するのではないだろうか。社会保障の内容には、小学校から大学の教育費が無料、手術や出産の費用も無料と、国民が納めたお金をしっかりと国が国民のために使っている。もう一つは、国民が消費税の使いみちを把握し、なおかつ理解していることではないだろうか。もし、消費税の使い道を国民が把握していないと、いくら生活が安定しているからといっても、使い道の分からない高い消費税を払う事に不満を抱いてしまうだろう。しかし、国民が消費税の使い道を把握し、なおかつ理解出来れば少し高くても安心して出せるはずだ。さて、日本はどうだろうか。ニュースを見てもお世辞にも社会保障は安定しているとは言えないし、生活も安定している人ばかりではない。そして何より消費税の使い道を把握している人や理解している人が少なすぎるのではないだろうか。実際は国民のために使われる消費税も、使い道を知らない人が増税と聞いたら反対するに決まっている。なので、国民に消費税の使い道を知らせる必要があるはずだ。そして、国民に消費税を理解してもらい、計画的な増税をしていくと、社会保障が充実し、安定した生活を送れる人が増え、国と国民との信頼関係が築き上げられ、国民の幸福度は上がるのではないだろうか。